

ライフ・ジャーニー (充実して楽しむコース)

【愛称：最高の人生の描き方】

追加型投信／内外／資産複合

日経新聞掲載名：充実し楽しむ

第11作成期 2023年3月16日から2023年9月15日まで

第30期 決算日
2023年5月15日

第31期 決算日
2023年7月18日

第32期 決算日
2023年9月15日

受益者の皆さまへ

平素は格別のお引立てに預かり、厚くお礼申し上げます。

当ファンドは投資信託証券への投資を通じて、世界各国の株式、債券および不動産投資信託(リート)等に分散投資します。当作成期についても、運用方針に沿った運用を行いました。今後ともご愛顧のほどお願い申し上げます。

当作成期の状況

基準価額(作成期末)	9,653円
純資産総額(作成期末)	6,396百万円
騰落率(当作成期)	+12.2%
分配金合計(当作成期)	285円

※騰落率は、分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したものです。

 **三井住友DSアセットマネジメント**
〒105-6426 東京都港区虎ノ門1-17-1
<https://www.smd-am.co.jp>

- 口座残高など、お取引状況についてのお問い合わせ
お取引のある販売会社へお問い合わせください。
- 当運用報告書についてのお問い合わせ

コールセンター 0120-88-2976
受付時間：午前9時～午後5時(土、日、祝・休日を除く)

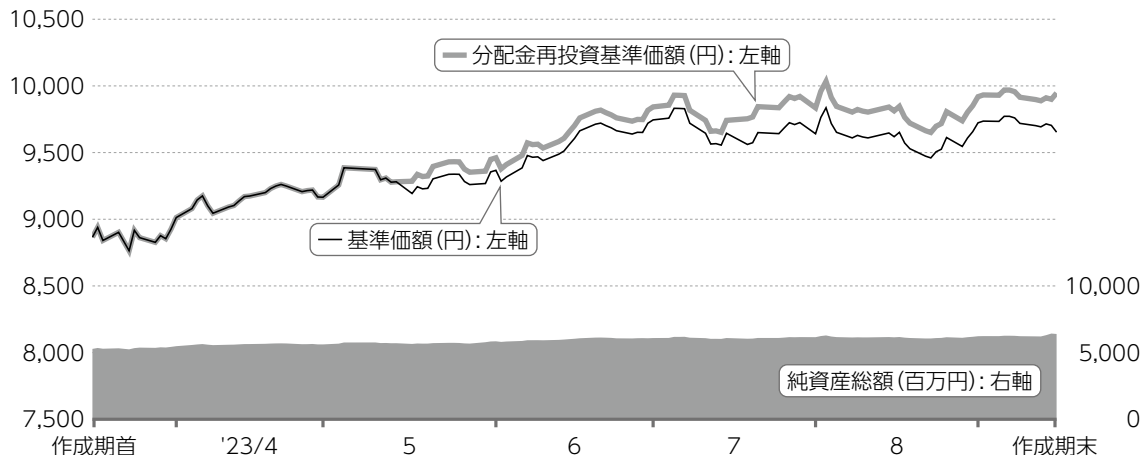
当ファンドは、信託約款において「運用報告書(全体版)」に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めており、次の手順でご覧いただけます。なお、印刷した「運用報告書(全体版)」はご請求により交付させていただきますので、販売会社までお問い合わせください。

【閲覧方法】<https://www.smd-am.co.jp/fund/unpo/>にアクセス→ファンド名を入力→検索結果からファンドを選択

1 運用経過

基準価額等の推移について(2023年3月16日から2023年9月15日まで)

基準価額等の推移



※分配金再投資基準価額は、作成期首の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

作成期首	8,865円
作成期末	9,653円 (当作成期既払分配金285円(税引前))
騰落率	+12.2% (分配金再投資ベース)

分配金再投資基準価額について

分配金再投資基準価額は分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示します。

※分配金を再投資するかどうかについては、受益者の皆さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額などによって課税条件も異なります。したがって、受益者の皆さまの損益の状況を示すものではありません。(以下、同じ)

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

基準価額の主な変動要因(2023年3月16日から2023年9月15日まで)

当ファンドは、主としてETF(上場投資信託)への投資を通じて世界各国の株式、債券およびリート(不動産投資信託)等に分散投資を行う外国投資信託証券*を主要投資対象としました。なお、世界の債券に投資するETFについては、為替ヘッジ付きのものを投資対象としています。
※外国投資信託証券の運用は、ブラックロック・アセット・マネジメント・ノース・アジア・リミテッドが行います。

上昇要因

- 先進国株式、日本株式、新興国株式が上昇したこと

下落要因

- 米国国債、投資適格社債の価格が下落したこと

1万口当たりの費用明細(2023年3月16日から2023年9月15日まで)

項目	金額	比率	項目の概要
(a) 信託報酬	54円	0.569%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率×(経過日数／年日数) 期中の平均基準価額は9,432円です。
(投信会社)	(16)	(0.166)	投信会社:ファンド運用の指図等の対価
(販売会社)	(36)	(0.387)	販売会社:交付運用報告書等各種資料の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(2)	(0.016)	受託会社:ファンド財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	－	－	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料:有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株式)	(－)	(－)	
(先物・オプション)	(－)	(－)	
(投資信託証券)	(－)	(－)	
(c) 有価証券取引税	－	－	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税:有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株式)	(－)	(－)	
(公社債)	(－)	(－)	
(投資信託証券)	(－)	(－)	
(d) その他費用	0	0.003	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数 保管費用:海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送付金・資産の移転等に要する費用 監査費用:監査法人に支払うファンドの監査費用 その他:信託事務の処理等に要するその他費用
(保管費用)	(－)	(－)	
(監査費用)	(0)	(0.003)	
(その他)	(0)	(0.000)	
合計	54	0.572	

※期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

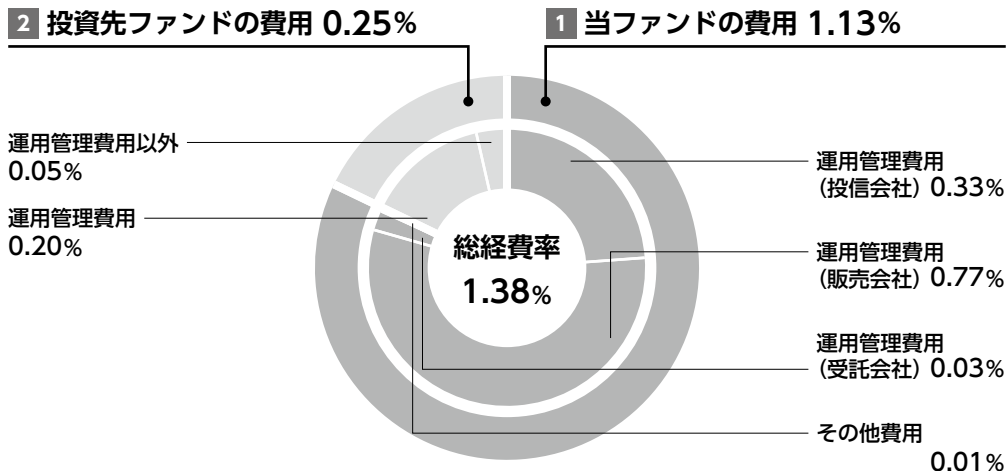
※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

※売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

※各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。



参考情報 総経費率(年率換算)



総経費率(1 + 2)	1.38%
1 当ファンドの費用の比率	1.13%
2 投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.20%
投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.05%

※**1**の各費用は、前掲「1万円当たりの費用明細」において用いた簡便法により算出したもので、各比率は、年率換算した値(小数点以下第2位未満を四捨五入)です。「1万円当たりの費用明細」の各比率とは、値が異なる場合があります。

※**2**の投資先ファンド(当ファンドが組み入れている投資信託証券(マザーファンドを除く))の費用は、シェアクラスの経費率です。運用管理費用と運用管理費用以外の費用を、目論見書に記載している料率にもとづき区別しています。投資先ファンドへの平均投資比率を勘案して、実質的な費用を計算しています。

※**1**と**2**の費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。また、計上された期間が異なる場合があります。

※上記の前提条件で算出している参考値であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した比率に、投資先ファンドの経費率を加えた総経費率(年率)は1.38%です。

最近5年間の基準価額等の推移について(2018年9月18日から2023年9月15日まで)

最近5年間の推移



※分配金再投資基準価額は、2018年9月18日の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

		2018.9.18 決算日	2019.9.17 決算日	2020.9.15 決算日	2021.9.15 決算日	2022.9.15 決算日	2023.9.15 決算日
基準価額	(円)	9,949	9,465	9,134	10,509	9,584	9,653
期間分配金合計(税引前)	(円)	—	565	538	605	593	558
分配金再投資基準価額騰落率	(%)	—	1.0	2.5	22.2	-3.2	6.9
純資産総額	(百万円)	2,418	2,947	3,393	4,171	5,423	6,396

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

投資環境について(2023年3月16日から2023年9月15日まで)

株式市場においては先進国株式、日本株式、新興国株式はそれぞれ上昇しました。債券市場では、米国長期国債は現地通貨ベースで価格は下落しました。米国投資適格債は現地通貨ベースで小幅に下落した一方、ハイイールド社債は、現地通貨ベースで上昇しました。リート市場では、米国のリートは現地通貨ベースで下落した一方、日本のリートは前期末比で上昇しました。為替市場では米ドル、ユーロともに対円で上昇しました。

株式市場

先進国株式、日本株式、新興国株式を含む幅広い株式市場が上昇しました。

期初は欧米の金融システム不安を受けて株式は一時的に調整したものの、4月中旬以降、信用不安の後退に伴い市場のリスク許容度が回復しました。5月には、米国の大型テクノロジー銘柄群を中心とした生成AI(人工知能)にかかる業績拡大期待から、日米欧の株式市場が上昇しました。8月には利益確定売りが散見されながらも、良好な決算発表や堅調な米国の経済指標データを受け、株式市場は上昇基調を取り戻しました。

債券市場

米国長期国債市場は、前期末比で利回りが上昇しました。FRB(米連邦準備制度理事會)など主要中央銀行による金融引き締めは継続しながらも、期初に見られた欧米の

金融システム不安の後退や米国景気への楽観を背景に、金利は上昇傾向で推移しました。

投資適格社債市場は前期末比で小幅に下落した一方、ハイイールド社債市場は前期末比で上昇しました。

リート市場

欧米のリート市場は、中央銀行による金融引き締め政策の継続などから下落しました。日本のリート市場は、日本銀行の政策修正を巡る不透明感から方向性が定まらずに推移したものの、オフィス稼働率の改善期待などが下支えし、前期末比で上昇しました。

為替市場

米ドル・円は、日米金融政策を巡る市場の観測など、米国の長期金利(10年国債利回り)の動向に伴う内外金利差の拡大に左右さ

れ、ボラティリティ(価格変動性)の高い展開となりました。7月の日本銀行の政策決定会合における金融政策の修正を受け、米ドルは対円で一時的に調整したものの、前

期末比では米ドル高・円安となりました。

ユーロ・円も、金融政策の方向性にかかる日欧の差異などを背景に、前期末比でユーロ高・円安となりました。

ポートフォリオについて(2023年3月16日から2023年9月15日まで)

当ファンド

「ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト/ブラックロック・エンハンスド・ストラテジック・アロケーション・ファンド(デキュムレーティング・クラス、円建て)」を高位に組み入れて運用を行いました。

ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト/ブラックロック・エンハンスド・ストラテジック・アロケーション・ファンド(デキュムレーティング・クラス、円建て)

●資産配分

年率10%程度のリスク量を目標に、各国の指数に連動する債券、株式といった伝統的資産に加え、ハイイールド社債、新興国株式、内外リートを加え、為替リスクも考慮したうえでポートフォリオ全体のリスク分散を図り、長期に安定したパフォーマンスを提供することを目標として組入れを行いました。組み入れたETFは、いずれも各資産クラスを代表する指数に概ね連動す

るもので、グローバルな市場に分散して投資を行うという、当ファンドの目的に適しています。また、各資産への配分比率は、短期的な市場変動の際にも一定の対応力があると思われる比率を勘案したうえで決定しています。

主要中央銀行の金融引き締め策などに留意する一方、企業業績や経済指標データにおける良好なファンダメンタルズ(基礎的条件)等を勘案した運用を維持しました。期初は、主要中央銀行による金融引き締め動向及び景気見通しに対する懸念からポートフォリオのリスクを抑制し、投資適格社債、先進国株式、国内株式及び米国リートのウェイトを引き下げ、米国国債のウェイトを引き上げました。

5月末には、米国債務上限問題に対する不透明感を受け、米国国債や市場混乱時における安定性が高いと考えられるMSCI日本株最小分散指数(配当込み)に連動することを目指すETFを引き上げた一方、新興国株式、ハイイールド社債、投資適格社債などのウェイトを引き下げました。

更に7月末には、これまで上昇基調を続

けてきた国内株式のウェイトを引き下げ、先進国株式(除く日本)及び新興国株式のウェイトを引き上げました。リートに関しては、利回り追求の動きを意識して一定程度の保有を維持しています。

マネー・トラスト・マザーファンド

主として、円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指した運用を行いました。

ベンチマークとの差異について(2023年3月16日から2023年9月15日まで)

ベンチマークおよび参考指数を設けていませんので、この項目に記載する事項はありません。

分配金について(2023年3月16日から2023年9月15日まで)

期間の1万口当たりの分配金(税引前)は、目標分配率(年6%、各決算時1%)に基づき、以下の通りといたしました。

なお、留保益につきましては、運用の基本方針に基づき運用いたします。

(単位：円、1万口当たり、税引前)

項目	第30期	第31期	第32期
当期分配金	92	96	97
(対基準価額比率)	(0.99%)	(0.99%)	(0.99%)
当期の収益	92	96	97
当期の収益以外	—	—	—
翌期繰越分配対象額	1,186	1,213	1,231

※単位未満を切り捨てているため、「当期の収益」と「当期の収益以外」の合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

※「対基準価額比率」は、「当期分配金」(税引前)の期末基準価額(分配金(税引前)込み)に対する比率で、当ファンドの収益率とは異なります。

2 今後の運用方針

当ファンド

引き続き、「ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト/ブラックロック・エンハンスト・ストラテジック・アロケーション・ファンド(デキュムレーティング・クラス、円建て)」の投資比率を高位に保ちます。

ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト/ブラックロック・エンハンスト・ストラテジック・アロケーション・ファンド(デキュムレーティング・クラス、円建て)

今後、株式市場はインフレ関連などの経済指標や金融当局からの発言に左右されるとみられるものの、堅調な労働市場や民間消費などを反映したファンダメンタルズの改善が見込まれ、中期的には回復方向を想定しています。新興国については、中国の経済回復を背景として、相対的に堅調に推移するものと思われま

す。債券市場については、インフレが鈍化しつつあることを背景に各国中央銀行は引き締めペースを徐々に緩めるとみられ、過度な金利上昇リスクは後退していると考えます。社債市場は、ファンダメンタルズは相対的に安定的に推移すると見込まれますが、リスクオフ(リスク回避)局面においてはハ

イーールド社債などのリスク資産が売られやすいため、動向を注視していきます。

ポートフォリオでは、実体経済動向や金融政策動向、各資産のバリュエーション(投資価値評価)等に留意しつつ、中長期的な目標リターンの獲得にむけて慎重なリスク量の管理を行いながらリバランス(投資配分比率の調整)を実施していく方針です。

当面は、株式を相対的に高位に保有する一方で、債券の保有は抑制気味とする方針です。また、ボラティリティの高い市場環境を見極めつつ、慎重なリスク量の管理を行っていく計画です。

マネー・トラスト・マザーファンド

引き続き、円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指した運用を行います。

3 お知らせ

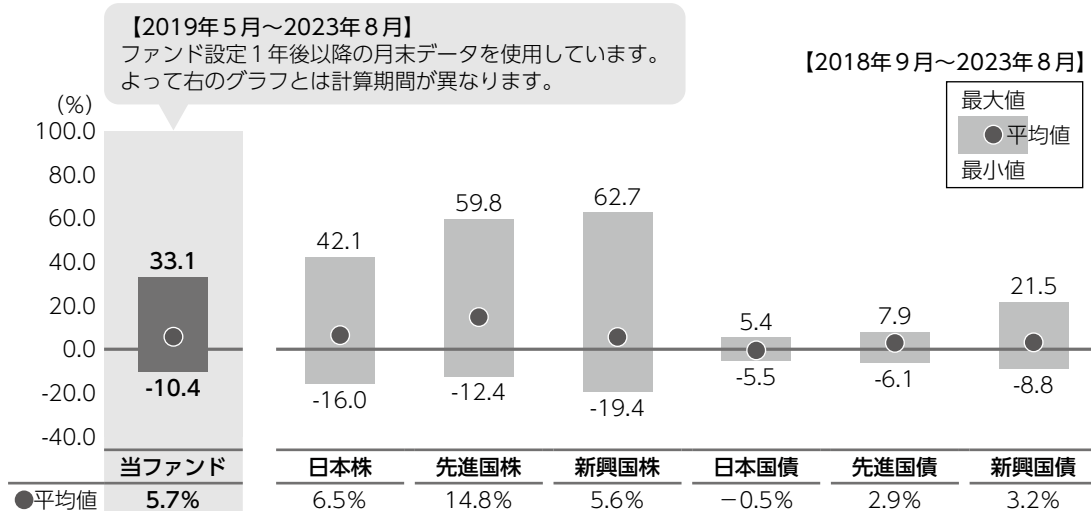
約款変更について

該当事項はございません。

4 当ファンドの概要

商 品 分 類	追加型投信／内外／資産複合
信 託 期 間	無期限(設定日：2018年5月16日)
運 用 方 針	投資信託証券への投資を通じて、世界各国の株式、債券および不動産投資信託(リート)等に分散投資します。
主 要 投 資 対 象	<p>当ファンドは以下の投資信託証券を主要投資対象とします。</p> <p>ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト／ ブラックロック・エンハンスト・ストラテジック・アロケーション・ファンド (デキュムレーティング・クラス、円建て)</p> <p>主に、日本国内の取引所に上場している投資信託証券(ETF)</p> <p>マネー・トラスト・マザーファンド</p> <p>円貨建ての短期公社債および短期金融商品</p>
当 ファ ン ド の 運 用 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ■世界各国の株式、債券および不動産投資信託(リート)等に分散投資します。 ■中長期的な目標リターンとして短期金利相当分+年3%程度を目指して資産配分を行います。 ■投資対象とする外国投資信託の運用は、ブラックロック・アセット・マネジメント・ノース・アジア・リミテッドが行います。
組 入 制 限	<ul style="list-style-type: none"> ■外貨建資産への直接投資は行いません。
分 配 方 針	<ul style="list-style-type: none"> ■年6回(原則として毎年1月、3月、5月、7月、9月、11月の15日。休業日の場合は翌営業日)決算を行い、分配を行います。 ■分配対象額は、経費控除後の利子、配当等収益と売買益(評価損益を含みます。)等の範囲内とします。 ■分配金額は、委託会社が目標分配率(年6%(各決算時1%)相当)に基づき決定します。 <p>※委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。</p>

5 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



※上記期間の月末ごとに、それぞれ直近1年間の騰落率を算出し、最大・平均・最小を表示しています。よって、決算日に対応した数値とは異なります。

※当ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したものです。

※全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

各資産クラスの指数

日本株	TOPIX(東証株価指数、配当込み) 株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社が算出、公表する指数で、日本の株式を対象としています。
先進国株	MSCIコクサイ・インデックス(グロス配当込み、円ベース) MSCI Inc.が開発した指数で、日本を除く世界の主要先進国の株式を対象としています。
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス(グロス配当込み、円ベース) MSCI Inc.が開発した指数で、新興国の株式を対象としています。
日本国債	NOMURA-BPI(国債) 野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表する指数で、国内で発行された公募固定利付国債を対象としています。
先進国債	FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース) FTSE Fixed Income LLCにより運営されている指数で、日本を除く世界の主要国の国債を対象としています。
新興国債	JPMオルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド(円ベース) J.P. Morganが算出、公表する指数で、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象としています。

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースとしています。

※上記各指数に関する知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。また、上記各指数の発行者および許諾者は、当ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

6 当ファンドのデータ

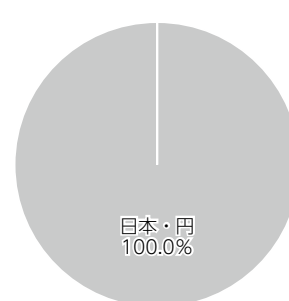
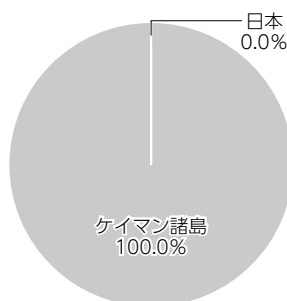
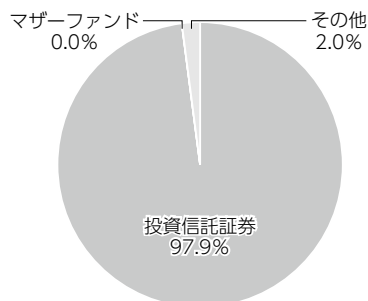
当ファンドの組入資産の内容(2023年9月15日)

組入れファンド等

銘柄名	組入比率
ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト/ ブラックロック・エンハンスト・ストラテジック・アロケーション・ファンド (デキュムレーティング・クラス、円建て)	97.9%
マネー・トラスト・マザーファンド	0.0%
コールローン等、その他	2.0%

※比率は、純資産総額に対する割合です。

資産別配分(純資産総額比) 国別配分(ポートフォリオ比) 通貨別配分(純資産総額比)



※未収・未払金等の発生により、数値がマイナスになることがあります。

純資産等

項目	第30期末 2023年5月15日	第31期末 2023年7月18日	第32期末 2023年9月15日
純資産総額 (円)	5,650,489,380	6,040,938,199	6,396,145,332
受益権総口数 (口)	6,146,404,797	6,318,333,225	6,625,861,205
1万口当たり基準価額 (円)	9,193	9,561	9,653

※当作成期における、追加設定元本額は870,986,991円、解約元本額は198,226,362円です。

組入上位ファンドの概要

ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト／ブラックロック・エンハンスト・ストラテジック・アロケーション・ファンド(デキュムレーティング・クラス、円建て) (2022年1月1日から2022年12月30日まで)

基準価額の推移以外は投資ファンドを含むシェアクラスで構成された「ブラックロック・エンハンスト・ストラテジック・アロケーション・ファンド」の情報で、ブラックロック・グループから提供されたデータに基づき作成しています。

基準価額(円建て)の推移



※分配金再投資ベース

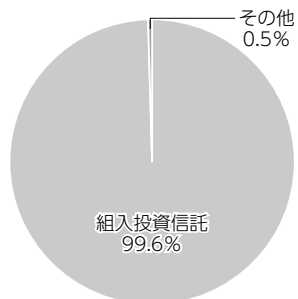
組入銘柄

(基準日：2022年12月30日)

	銘柄名	投資対象	組入比率
1	i シェアーズ・コア M S C I 先進国株(除く日本) E T F	外国株式	29.9%
2	i シェアーズ・コア T O P I X E T F	国内株式	15.7%
3	i シェアーズ・コア M S C I 新興国株 E T F	外国株式	13.8%
4	i シェアーズ 米ドル建て投資適格社債 E T F (為替ヘッジあり)	外国債券	12.0%
5	i シェアーズ・コア 米国債 7-10年 E T F (為替ヘッジあり)	外国債券	9.9%
6	i シェアーズ 米ドル建てハイイールド社債 E T F (為替ヘッジあり)	外国債券	6.1%
7	i シェアーズ・コア J リート E T F	リート	4.9%
8	i シェアーズ 米国リート E T F	リート	4.9%
9	i シェアーズ M S C I 日本株最小分散 E T F	国内株式	2.4%
	全銘柄数		9 銘柄

※比率は、純資産総額に対する割合

資産別配分(純資産総額比)



※基準日は2022年12月30日です。

※国別配分／通貨別配分については、入手できるデータがないため記載していません。

1万口当たりの費用明細

※単位当たり費用明細は入手できるデータがないため記載していません。